秋 田 市

## 向 野 遺 跡

- 携帯電話無線基地局建設工事に伴う緊急発掘調査報告書 -

2006.3 株式会社エヌ·ティ·ティ·ドコモ東北 秋田市教育委員会

本書は、秋田市雄和向野地内に所在する向野遺跡の発掘調査報告書です。

当社では、秋田市雄和向野字吹欠下に雄和向野局携帯電話 無線基地局建設工事を計画しました。しかし、予定地内には 向野遺跡が存在することから秋田市教育委員会と協議を重 ね、工事着工前に発掘調査を実施することとし、平成17年7 月上旬から8月上旬に分布調査と発掘調査を実施いたしまし た。

調査の結果、縄文時代中期中葉から後葉の土坑等が確認され、集落の一部を構成することがわかりました。

本報告書はその調査結果をまとめたものであり、文化財保 護のために広く活用していただければ幸いに存じます。

刊行にあたり、発掘調査にご尽力いただきました秋田市教育委員会をはじめ、関係各位の皆様に深く感謝を申し上げます。

平成18年3月

株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ東北 代表取締役社長 富 岡 齋

#### 例 言

- 1 本報告書は、IMT雄和向野局携帯電話無線基地局建設工事に伴う向野遺跡(秋田市雄和向野字吹欠下)の緊急発掘調査報告書である。
- 2 調査は株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ東北が事業主体者、秋田市教育委員会が調査主体者となり 実施した。整理作業は株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ東北が事業主体者、株式会社本郷建設工務 所が業務受託者、秋田市教育委員会が整理担当者となり実施した。
- 3 本報告書の執筆は、安田忠市(秋田城跡調査事務所)の指導を得て進藤 靖が行った。
- 4 遺物の実測及びトレース、遺構図の作成及びトレースは、進藤のほか、整理員の大井重樹、渡辺範があたった。
- 5 遺跡の地形・地質は『土地分類基本調査 羽後和田 秋田県 1975年3月』を参照した。
- 6 発掘調査による出土遺物、実測図、写真、その他の記録は秋田市教育委員会が保管する。

#### 目 次

序

調查の	D概要	1
1	調査に至るまでの経過	1
2	調査期間と体制	1
3	調査の経過	3
4	遺跡の位置と地形・地質	3
5	周辺の遺跡	3
調査の	D記録	7
1	調査の方法	7
2	基本層序	7
3	遺構と遺物	7
4	遺構外出土土器	19
5	遺構外出土石器	21
<b>=</b> レル	h	21

#### 調査の概要

#### 1 調査に至るまでの経過

株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ東北 代表取締役 富岡 齋は、向野遺跡が所在する秋田市雄和向野字吹欠下29番地1にIMT雄和向野局携帯電話無線基地局建設工事を予定していることから、秋田市教育委員会と埋蔵文化財に関する事前協議を行い、平成17年3月25日付けで秋田市教育委員会に埋蔵文化財事前調査依頼及び秋田県教育委員会に土木工事等のための発掘に関する届出(文化財保護法第93条)があった。

これを受けて秋田市教育委員会は、平成17年4月6日に分布調査による現況確認をし、4月26日に試掘による範囲確認調査を実施した結果、土坑等の遺構や遺物包含層を確認した。

そして、エヌ・ティ・ティ・ドコモ東北と秋田市教育委員会と遺跡の保護について協議した結果、事業予定地の変更等は困難であることから、発掘調査による記録保存を行うこととなった。秋田市教育委員会は、事前調査及び協議結果を秋田県教育委員会へ報告し、エヌ・ティ・ティ・ドコモ東北は、平成17年5月6日付け教生 - 267で周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等について、工事着手の前に発掘調査実施を条件とする通知を受けた。

この通知を受けて株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ東北は、工事着手前に発掘調査を実施することとし、平成17年6月15日付けで秋田市教育委員会に事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査について依頼があり、 秋田市教育委員会が向野遺跡の発掘調査を実施することとなった。

#### 2 調査期間と体制

調査期間 平成17年7月6日~8月8日(19日間)

調 査 面 積 88 m

調査主体者 株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ東北

調查担当者 秋田市教育委員会文化振興室

調 査 体 制 秋田市教育委員会文化振興室

室 長小松正夫

参 事 松 尾 由美子

文化財担当

主席主查西谷 隆

文化財保護主事 進 藤 靖(調査担当)

文化財保護主事 中 川 宏 行

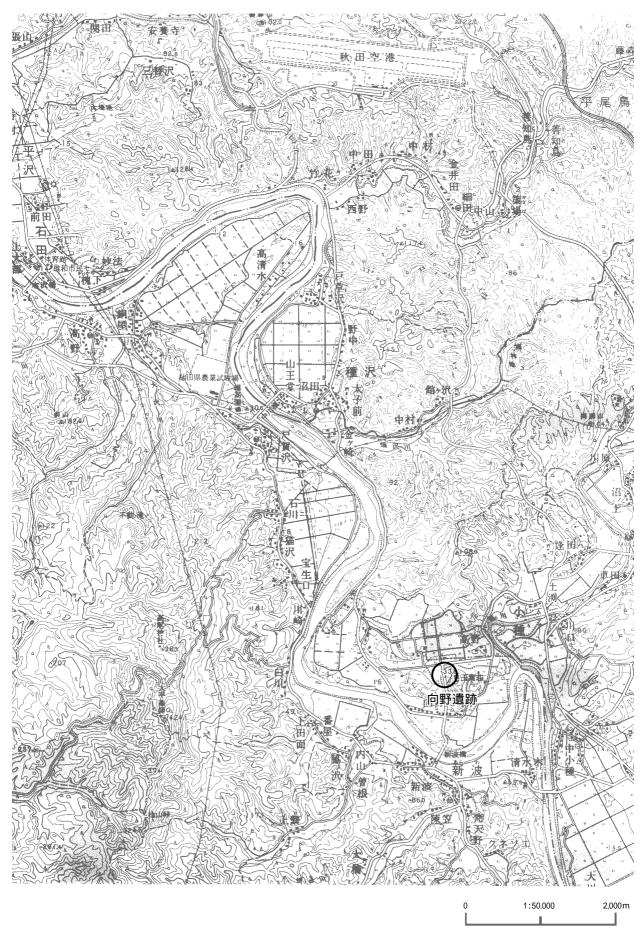
文化財保護主事 神 田 和 彦(調査担当)

文化財保護主事 小 野 降 志

秋田市雄和ふるさとセンター

技能技師鈴木 清

調査作業員:相澤栄子、相澤 健、浅野省三、久米鉄雄、斉藤 馨、斉藤利夫、田村聰孝、 那須芳秋



第1図 遺跡の位置

整 理 員:大井重樹、渡辺 範

#### 3 調査の経過

発掘調査は平成17年7月6日から8月8日まで実施した。7月6日、調査範囲を設定し、重機による表土除去作業を開始した。7月8日、遺物包含層の掘り下げと遺構の精査を開始した(7月12日まで)。7月12日、遺構確認状況の写真撮影を行った。7月13日、各遺構の掘り下げと記録化を実施した(8月3日まで)。8月3日、遺跡全景写真撮影、8月4日、平面実測を実施した(8月7日まで)。8月8日、機材を撤収し、調査を終了した。

#### 4 遺跡の位置と地形・地質

向野遺跡は、秋田市の南部、北緯39°32 32 、東経140°13 50 、秋田市雄和向野字高野、吹欠下地内の雄物川右岸の標高約20~30mの段丘上に所在する。日本海からは約15.5km内陸へ入った地点で、遺跡の南西約300mには雄物川が流れている。秋田空港から南へ約8kmの地点である。

秋田市雄和向野地区は向野原段丘とその南側の雄物川低地に位置する。向野原段丘は、淀川が雄物川に合流する部分に発達する河岸段丘で、東側の15m面は向野原段丘東側に位置する川口段丘や清水木段丘とは同一段丘面となっている。面形成後は、淀川口の最低点の低湿地、海抜高度10mの閉曲線で示す面を求めて3面は東、南、北より傾き、雄物川の河道方向もこの傾動に対応して、最初は北、西、南の方向へ鋭角状の流路となっており、これは地殻運動の構造性によることを意味している。川口面末端上面の雄物川右岸には自然堤防の残片があり、人工によって著しく変形を受けている。上位は上位自然堤防面と呼び、在来のそれは低位自然堤防面といえる。向野原段丘の地質は、第四紀洪積世の礫・砂及び泥(段丘堆積物)や沖積世の礫・砂及び泥(沖積層)などからなっている。

遺跡はこの向野原段丘に所在し、北側が最も高く、南側の雄物川に向かって低くなっており、遺跡の中央東側は国道341号が縦断している。近世には開拓により農地として利用され、現在も水田・畑地となっている。

#### 5 周辺の遺跡(第2図)

秋田市雄和地区では、平成15年度に秋田県教育委員会が実施した遺跡分布調査で63箇所の遺跡が確認されている。この分布調査に基づいて、女米木・繋・新波周辺の遺跡について概観する。

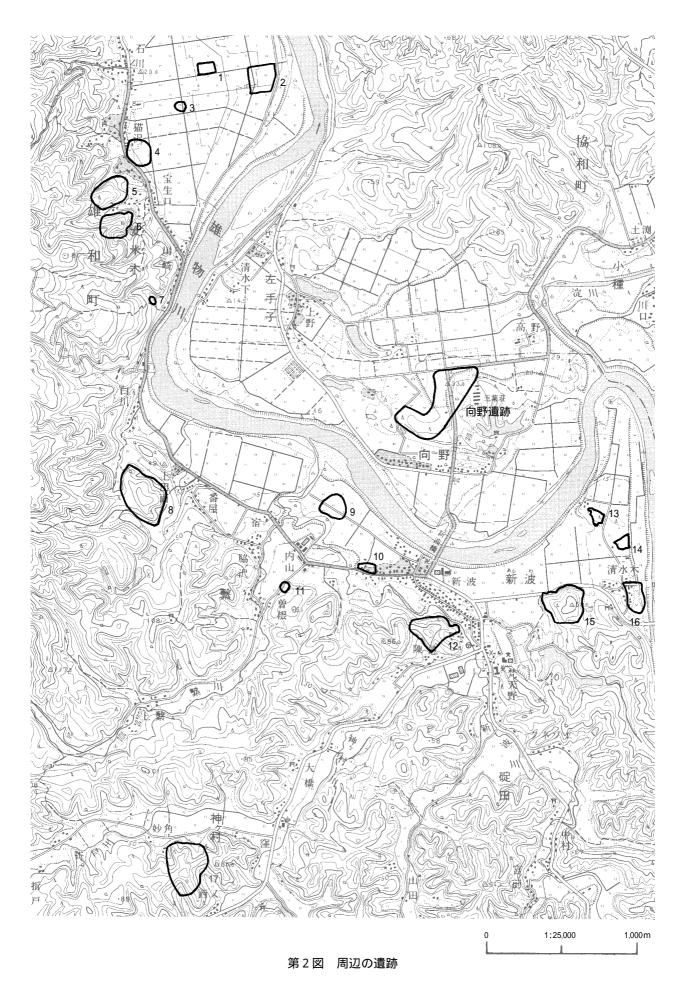
旧石器時代については、この地域で現在のところ確認されていない。

縄文時代については、新波志開遺跡(9) 清水木遺跡(16)が所在し、それぞれ土器・石器が採集されている。

弥生時代については、川崎遺跡(7)から土器・石器が採集されている。

古代については、石川 遺跡(1)から柱穴が、女米木山崎遺跡(3)から柱穴・溝跡・土坑が確認され、須恵器・土師器が採集されている。猫沢 遺跡(4)新波志開遺跡(9)大巻 遺跡(13)大巻 遺跡(14)清水木遺跡(16)からは須恵器・土師器が採集されている。また清水木遺跡からは青磁・鉄滓も採集されている。

中世については、寺沢館(5)と又右ェ門館(6)が雄物川左岸の標高約90mの丘陵に位置する。館は単郭で、主郭・帯郭・空堀が認められる。白川館(8)は、雄物川左岸の標高約70mに位置する。館

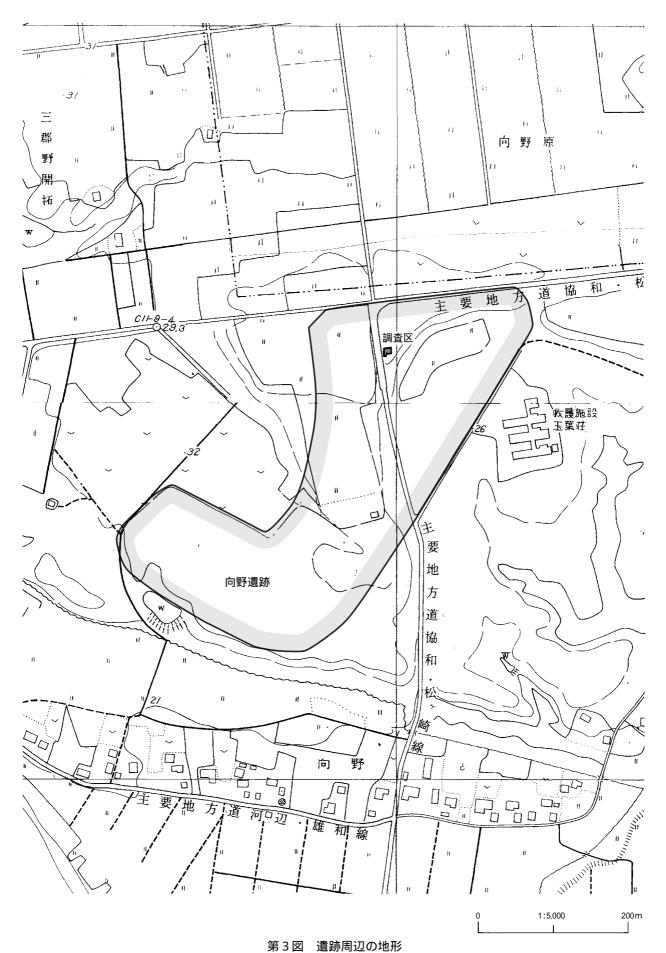


番号	遺	跡	名	所	在	地	種	別	時	1	弋	遺	ħ	冓	•	遺	物	
1	石川	遺跡 秋田市雄和女米木字石川					遺物包	含地	平安			柱穴、須恵器・土師器						
2	猫沢遺	遺跡		秋田市雄和	0女米木字	遺物包	含地				板材							
3	女米オ	に山崎	遺跡	秋田市雄和	0女米木字	遺物包	含地	平安			柱穴・溝・土坑、須恵器・土師器							
4	猫沢	遺跡	ī	秋田市雄和	0女米木字	遺物包	含地	平安			須恵器・土師器							
5	寺沢飢	官		秋田市雄和	0女米木字	宝生口	館跡		中世			帯郭・空堀						
6	又右ュ	門館	Ĩ.	秋田市雄和	0女米木字	宝生口	館跡		中世			帯郭・空堀						
7	川崎遺	遺跡		秋田市雄和	0女米木字	川崎	遺物包	含地	弥生			弥生土	器・石	鎌・	石匙			
8	白川飢	官		秋田市雄和	「繋字西の	沢	館跡		中世			腰郭・	帯郭					
9	新波志	に開遺	跡	秋田市雄和	<b>미新波字志</b>	開	遺物包含地 縄文・平安					縄文土器・須恵器・土師器						
10	新波新	<b>师</b> 遺	跡	秋田市雄和	口新波字新	町	遺物包	含地	近代			井戸跡	jī					
11	北ノ傷	吴遺跡	ī	秋田市雄和	マママ マスタン マスタン アイス	俣	遺物包	含地				剥片						
12	大正寺	宇館		秋田市雄和	口新波字後	口沢	館跡		中世			腰郭・	帯郭・	土塁	・空堀	Ē		
13	大巻	遺跡	ī	秋田市雄和	미新波字大	巻	遺物包	含地	平安			土師器	Ę					
14	大巻	大巻 遺跡 秋田市雄和新波字大巻						含地	平安	平安 須恵器・土師器								
15	新波館 秋田市雄和新波字山崎						館跡		中世 馬場(郭)									
16	清水オ	遺跡	ī	秋田市雄和	1新波字清	水木	遺物包	含地	縄文・	奈良・	平安	縄文土	器・須	恵器	・土師	お器・青磁	弦・鉄滓	
17	折戸飢	È		秋田市雄和	口神ヶ村字	折戸杉沢	館跡		中世			帯郭・	空堀			·		

は連郭で帯郭・腰郭が認められる。大正寺館(12)は、雄物川左岸の標高約120mに位置する。館は連館で帯郭・腰郭・土塁・空堀が認められる。新波館(15)は、雄物川左岸の標高約60mに位置する。館は連郭で帯郭・馬場が認められる。折戸館(17)は、折戸川右岸の標高約80mに位置する。館は連郭で帯郭・空堀が認められる。

近世については、この地域で現在のところ確認されていない。 近代については新波新町遺跡(10)で井戸跡が確認されている。

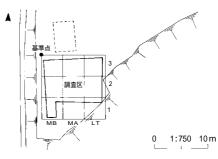
註1 『秋田県遺跡地図(秋田・河辺地区版)』 秋田県教育委員会 2004年3月 註2 『秋田県の中世城館』 秋田県文化財調査報告書第86集 秋田県教育委員会 1981年3月 註3~7 註2に同じ



#### 調査の記録

#### 1 調査の方法

調査区に任意の点 1 箇所を選定し、この基準杭から東西基線とこれに直交する南北基線に  $4 \times 4$  mのグリッドを設定した(第 4 図 )。基準点は X = -50,619.405、 Y = -51,808.251、 H = 33.244である。グリッドは、東西方向(X 軸)に 2 文字のアルファベット、南北方向(Y 軸)に算用数字を付し、各グリッドの南東隅の交点で両者を組み合わせてグリッド名とした。



第4図 グリッド配置図

#### 2 基本層序(第5図)

調査区の基本層序は、第 層 暗褐色土(10YR3/3)(表土・耕作土) 第 層 暗褐色土(10YR3/3)が混じる黒褐色土(10YR2/2)(旧耕作 土)第 層 黒褐色土(10YR2/2)(遺物包含層)第 層 黒褐色土 (10YR2/2)が混じる明褐色粘土(7.5YR5/6)(漸移層)第 層 明褐 色粘土(7.5YR5/6)(地山)である。なお、調査区北西側から中央部 にかけては、削平によって第 層は確認されなかった。

# (10YR2/2)が混じる明褐色粘土 (7.5YR5/6)(漸移層) 第 層 明褐色粘土 (7.5YR5/6)(地山)である。なお、調査区北西側から中央部にかけては、削平によって第 層は確認されなかった。 3 遺構と遺物 遺構は溝状土坑 1 条、土坑25基で、全て地山面での確認である(第6図)。

#### 1号溝状土坑(第7図)

調査区中央部で確認された。幅60~70cmで、確認面からの深さは 1.2~1.3mである。断面は「U」字状を呈し、壁はほぼ垂直に立ち上 がる。溝状土坑の方向は調査区中央から北側にかけてはほぼ真北を向

第5図 基本土層柱状図

き、中央から南側にかけては東側に弧状を呈している。13、14号土坑と重複し、これらより新しい。 出土遺物

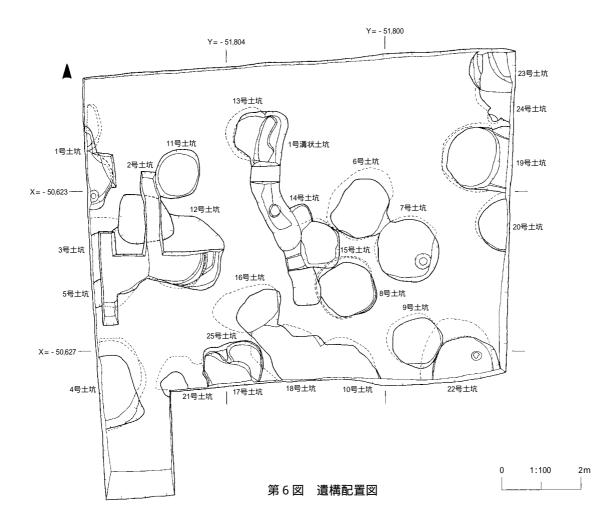
埋土より縄文土器片が少量出土したが、小破片であり図示できなかった。

#### 1号土坑(第7図、図版3)

調査区の北西側で確認された。平面形は西側が調査区外であることから不明であるが、東西60cm以上、南北2.2mの楕円形を呈すると考えられる。確認面からの深さは2mで、壁は南側がほぼ垂直に、北側が内湾しながら立ち上がる。底面は南側が平坦であるが、北側はさらに東西40cm以上、南北1.2m、深さ1.1m掘り込まれている。最大径は壁の中間に位置し、東西65cm以上、南北2.5mである。

#### 出土遺物

土器 (第13図2~4、図版7)



全て埋土出土の深鉢形土器である。2は口縁部がほぼ直立し、綾絡文が施されている。3は口縁部に 撚糸圧痕を施して文様を作り出している。4は波状文を施している。

#### 2号土坑(第8図)

調査区の西側で確認された。平面形は長軸1.6m、短軸1.3mの楕円形を呈し、確認面からの深さは1.3mで、壁は内湾しながら立ち上がり、断面形は袋状をなす。底面はほぼ平坦で、長軸2.4m、短軸1.8mの楕円形を呈し、最大径となっている。3、12号土坑と重複し、これらより新しい。

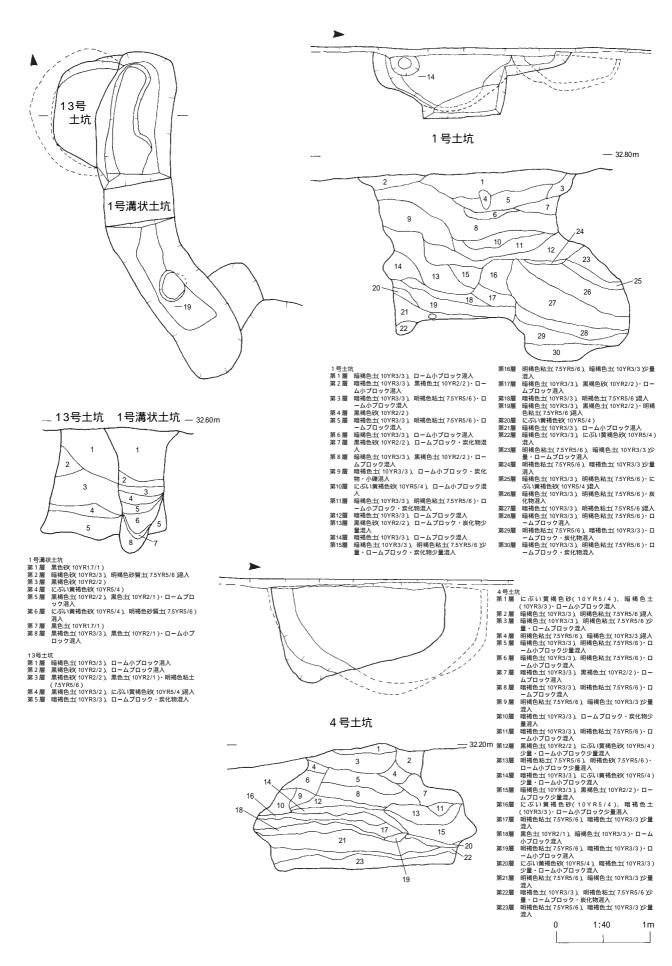
#### 出土遺物

#### 土器 (第13図5、図版7)

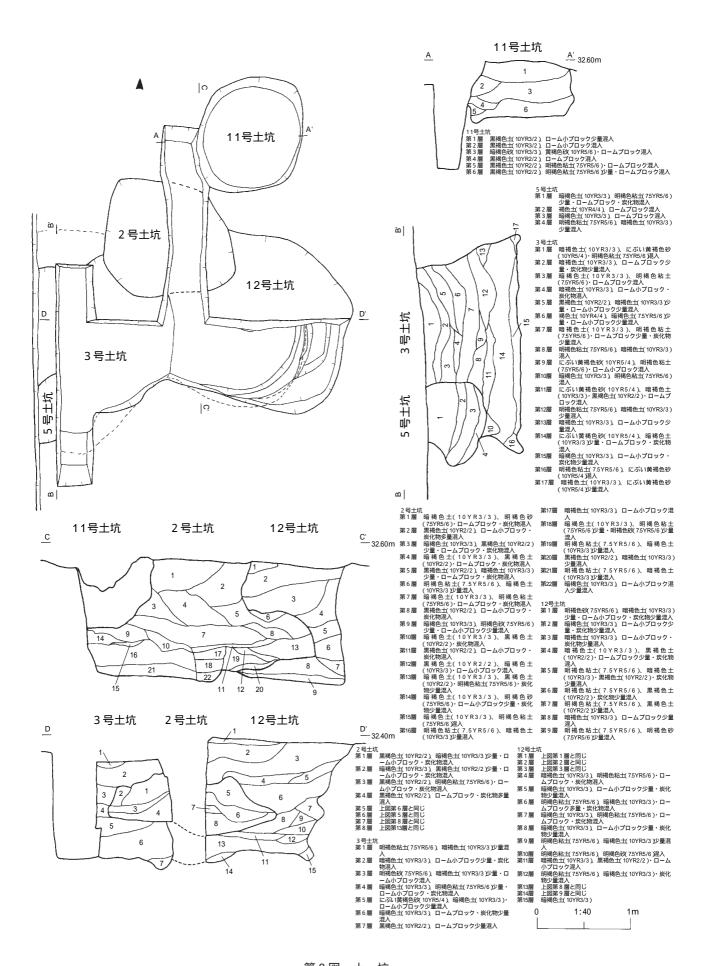
埋土出土の深鉢形土器である。口縁部が緩く外反し、2列に刺突文を施すもので、綾絡文が認められる。

#### 3号土坑(第8図)

調査区の西側で確認された。平面形は西側が調査区外、南側が5号土坑、東側が2号土坑に切られていることから不明であるが、楕円形を呈すると考えられる。確認面からの深さは1mで、壁は内湾しながら立ち上がり、断面形は袋状をなす。底面は平坦で、東西1.5m以上、南北2.3mの楕円形を呈すると考えられ、最大径となっている。2、5、12号土坑と重複し、2、5号土坑より古く、12号土坑より新しい。



第7図 溝状土坑・土坑



第8図 土 坑

#### 4号土坑(第7図、図版3)

調査区の南東側で確認された。平面形は西側が調査区外であることから不明であるが、東西1.1m以上、南北1.3mの楕円形を呈すると考えられる。確認面からの深さは1.2mで、壁は内湾しながら立ち上がり、断面形は袋状をなす。底面は平坦で、東西1m以上、南北1.3mの楕円形を呈すると考えられる。最大径は壁の中間に位置し、東西1.1m以上、南北2.4mである。

#### 5号土抗(第8図)

調査区の西側で確認された。平面形は西側が調査区外であることから不明であるが、東西1.2m以上、南北60cmの楕円形を呈すると考えられる。確認面からの深さは60cmで、壁は内湾しながら立ち上がり、底面はレンズ状に緩くくぼんでいる。最大径は壁の中間に位置し、東西1.2m以上、南北90cmである。3号土坑と重複し、これより新しい。

#### 6号土坑(第9図、図版3)

調査区の中央東側で確認された。平面形は長軸1.5m、短軸1.3mの楕円形を呈し、確認面からの深さは1.3mである。壁は東側が外傾しながら、西側が内湾しながら立ち上がる。底面は平坦で、長軸1.9m、短軸1.4mの楕円形を呈し、最大径となっている。7号土坑と重複し、これより新しい。

#### 7号土坑(第9図、図版3)

調査区の中央東側で確認された。平面形は径1.6mの円形を呈し、確認面からの深さは75cmである。 壁は東側と南側がほぼ垂直に、西側と北側が内湾しながら立ち上がり、断面形はビーカー状をなす。底面は平坦で、長軸1.7m、短軸1.5mの楕円形を呈し、最大径となっている。6号土坑と重複し、これより古い。

#### 出土遺物

埋土より縄文土器片が少量出土したが、小破片であり図示できなかった。

#### 8号土坑(第9図、図版3)

調査区の中央部で確認された。平面形は長軸1.5m、短軸1.3mの楕円形を呈し、確認面からの深さは 1 mである。壁は内湾しながら立ち上がり、断面形は袋状をなす。底面は平坦で、長軸1.5m、短軸1.4 mの楕円形を呈する。最大径は壁の中間に位置し、長軸1.6m、短軸1.5mである。

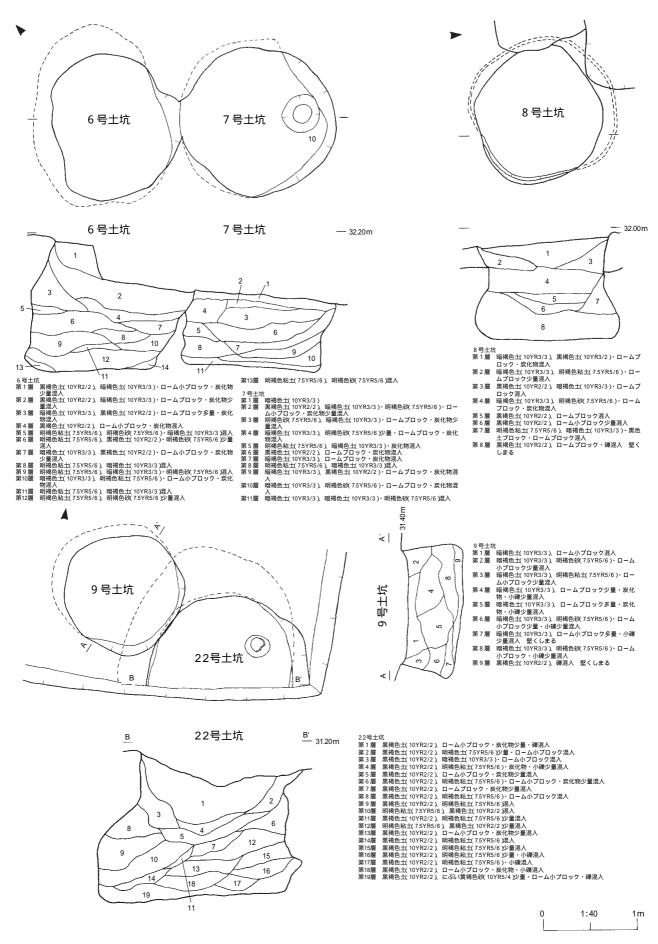
#### 出土遺物

#### 土器 (第13図6~8、図版7)

全て埋土出土の深鉢形土器である。6は口縁部に粘土紐で三角形の把手を貼付し、沈線によって渦巻 文や直線文が施されるものである。7は沈線区画の磨消帯を施すもの、8は粘土紐によって文様を作り 出すもので、地文は7がLR単節斜縄文(縦位回転)、8がRL単節斜縄文(縦位回転)である。

#### 9号土坑(第9図、図版4)

調査区の南東側で確認された。平面形は径1.3mの円形を呈し、確認面からの深さは60cmである。壁は内湾しながら立ち上がり、断面形はビーカー状をなす。底面は平坦で、長軸1.4m、短軸1.3mの楕円



第9図 土 坑

形を呈し、最大径となっている。

出土遺物

埋土より縄文土器片が少量出土したが、小破片であり図示できなかった。

#### 10号土坑 (第10図、図版4)

調査区の南側で確認された。平面形は南側が調査区外であることから不明であるが、東西1.5m、南北80cm以上の楕円形を呈すると考えられる。確認面からの深さは80cmで、壁は内湾しながら立ち上がり、断面形はビーカー状をなす。底面は平坦で、東西1.7m、南北1m以上の楕円形を呈すると考えられ、最大径となっている。18号土坑と重複し、これより新しい。

#### 出土遺物

土器 (第13図9、10、図版7)

いずれも埋土出土の深鉢形土器である。9は口縁部が緩く外反し、2列に刺突文を施すもので、綾絡文が認められる。10は地文のみのもので、LR単節斜縄文(縦位回転)が施され、胎土に繊維が混入している。

#### 11号土坑(第8図)

調査区の北西側で確認された。平面形は長軸1.2m、短軸1.1mの楕円形を呈し、確認面からの深さは60cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形はビーカー状をなす。底面は平坦で、長軸1.1m、短軸1mの楕円形を呈する。

#### 出土遺物

土器 (第13図11、12、図版7)

いずれも埋土出土の深鉢形土器で、口縁部が外反し、口唇部に刻目を施している。11は沈線によって 鋸歯状文が施されている。12は刺突文が施されている。

#### 12号土坑(第8図)

調査区の西側で確認された。平面形は北西側が2号土坑、西側が3号土坑によって切られていることから不明であるが、楕円形を呈すると考えられる。確認面からの深さは1.2mで、壁は東側が外傾しながら、南側が内湾しながら立ち上がり、断面形はビーカー状をなす。底面は平坦であるが、規模は不明である。最大径は底面と考えられる。2、3号土坑と重複し、これらより古い。

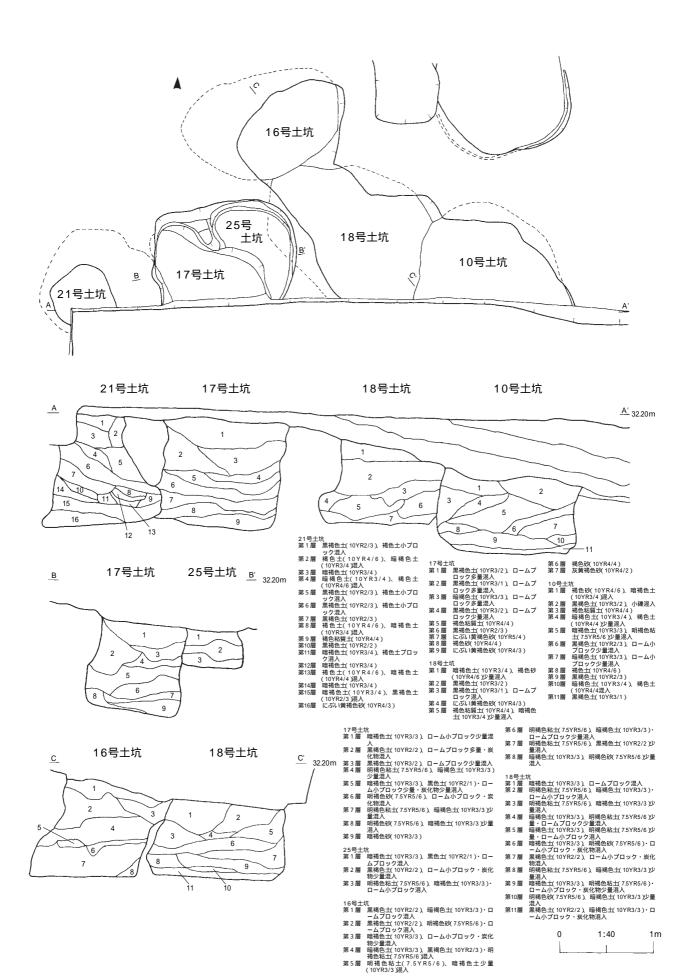
#### 出土遺物

土器 (第13図13、14、図版7)

いずれも埋土出土の深鉢形土器である。13は粘土紐を貼付して文様を作り出すものである。14は地文のみのもので、RL単節斜縄文(縦位回転)である。

#### 13号土坑(第7図)

調査区の中央北側で確認された。平面形は東側が1号溝状土坑に切られていることから不明であるが、 楕円形を呈すると考えられる。確認面からの深さは1.2mで、壁は内湾しながら立ち上がり、断面形はビ ーカー状をなす。底面は平坦で径1.3mの円形を呈し、最大径となっている。1号溝状土坑と重複し、こ



第10図 土 坑

#### れより古い。

#### 14号土坑(第11図)

調査区の中央部で確認された。平面形は西側が1号溝状土坑、南側が15号土坑によって切られていることから不明である。確認面からの深さは25cmで、壁は緩く立ち上がり、底面は緩くくぼんでいる。1号溝状土坑、15号土坑と重複し、これらより古い。

#### 15号土坑 (第11図、図版3)

調査区の中央部で確認された。平面形は西側が撹乱によって切られていることから不明であるが、長軸1.4m、短軸1.2mの楕円形を呈すると考えられ、確認面からの深さは55cmである。壁は北側が内湾しながら、その他はほぼ垂直に立ち上がり、底面は緩くくぼんでいる。14号土坑と重複し、これより新しい。

#### 16号土坑 (第10図)

調査区の中央南側で確認された。平面形は長軸1.3m、短軸90cmの不整形を呈し、確認面からの深さは1mである。壁は西・北側が内湾しながら、東側がほぼ垂直に、南側が外傾しながら立ち上がる。底面は平坦で、長軸1.7m、短軸1.1mの楕円形を呈し、最大径となっている。18号土坑と重複し、これより新しい。

#### 出土遺物

埋土より縄文土器片が少量出土したが、小破片であり図示できなかった。

#### 17号土坑 (第10図、図版4)

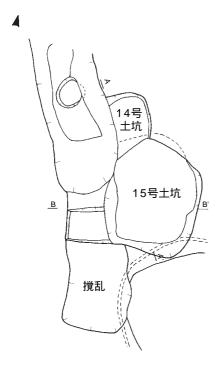
調査区の南側で確認された。平面形は南側が調査区外であることから不明であるが、楕円形を呈すると考えられる。確認面からの深さは1.1mで、壁はやや内湾しながら立ち上がり、断面形はビーカー状をなす。底面は平坦で、東西1.3m、南北70cm以上の楕円形を呈すると考えられ、最大径となっている。21、25号土坑と重複し、21号土坑より古く、25号土坑より新しい。

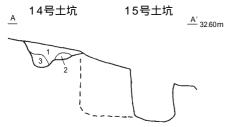
#### 18号土坑 (第10図、図版5)

調査区の南側で確認された。平面形は南側が調査区外で、東側が10号土坑に、北西側が18号土坑に切られていることから不明である。確認面からの深さは80cmで、壁は内湾しながら立ち上がり、断面形は袋状をなす。底面は平坦で、長軸1.7m以上、短軸1.4mの楕円形を呈すると考えられ、最大径となっている。10、16号土坑と重複し、これらより古い。

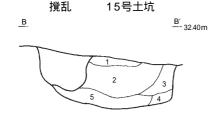
#### 19号土坑(第11図、図版5)

調査区の東側で確認された。平面形は東側が調査区外であることから不明であるが、東西1.5m以上、南北1.2mの楕円形を呈すると考えられる。確認面からの深さは1.2mで、壁は内湾しながら立ち上がり、断面形はビーカー状をなす。底面は平坦で、東西1.7m以上、南北1.2mの楕円形を呈すると考えられる。最大径は壁の中間に位置し、東西1.7m以上、南北1.4mである。

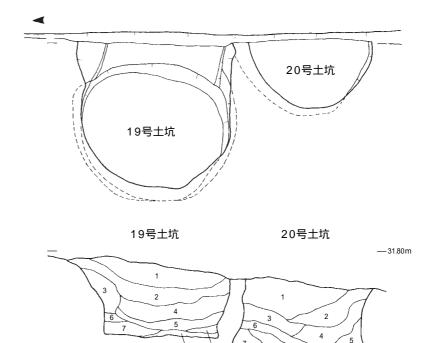




第1層 暗褐色土(10YR3/3),明褐色粘土(75YR5/6)少量・近代物温入 少量・炭化物温入 第2層 明褐色粘土(75YR5/6)、暗褐色土(10YR3/3)混入 第3層 明褐色粘土(75YR5/6)、暗褐色土(10YR3/3)少量混入



- 第1層 黒褐色土(10YR2/2)、暗褐色土(10YR3/3)少量・ローム小ブロック 混入 黒褐色土( 10YR2/2 )、明褐色土( 7.5YR5/6 )少量・ロームブロック・



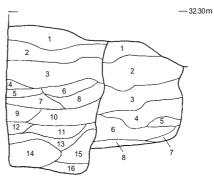
19号士坑 第1層 暗褐色土(10YR3/3)、ロームブロック・炭化物少量混入 人 第2層 暗褐色土(10YR3/3)、ローム小ブロック・炭化物混入 第3層 明褐色土(75YR5/6)、暗褐色土(10YR3/3)少量混入 第4層 暗褐色土(10YR3/3)、ローム小ブロック少量・炭化物 少温混入 第1層 にぶい黄褐色を(10YR5/4)、暗褐色土(10YR3/3)・ローム小ブロック・炭化物少量混入 第一個 にが「10YR5/3」の明褐色牡土(75YR5/6)・ローム・ハブロック・炭化物少量混入 第1層 明褐色土(10YR3/3)、明褐色土(10YR3/3)少量混入 第1層 明褐色粒土(5YR5/6)、暗褐色土(10YR3/3)少量混入 第3層 明褐色枚土(5YR5/6)、暗褐色土(10YR3/3)少量混入 第3層 黒褐色土(10YR2/2)、暗褐色土(10YR3/3)・ローム小ブロック混入

10

20号土坑 第1層 暗褐色土(10YR3/3)、ロームブロック多量・炭化物混入 第2層 暗褐色土(10YR3/3)、ローム小ブロック少量・炭化物少量混入 第3層 暗褐色土(10YR3/3)、黒褐色土(10YR2/2)・ローム小ブロック 少量混入 第4層 黒褐色土(10YR2/2)、ローム小ブロック少量混入 第5層 黒褐色土(10YR2/2)、明褐色吹75YR5/6)・ローム小ブロック 少量混入 第6層 明褐色土(10YR3/3)、明褐色粘土(15YR3/3)少量混入 第7層 暗褐色土(10YR3/3)、明褐色粘土(75YR5/6)・黒褐色土 (10YR2/2)少量混入 第8層 暗褐色土(10YR3/3)、明褐色粘土(75YR5/6)少量混入 第9層 黒褐色土(10YR3/2)、ローム小ブロック少量混入 第10層 黒褐色土(10YR2/2)、ローム小ブロック少量混入 第10層 黒褐色土(10YR2/2)、暗褐色土(10YR3/3)・ローム小ブロック 少量混入

24号土坑 23号土坑

> 23号土坑 24号土坑



23号土坑
第1層 明褐色砂(75YR5/6) 暗褐色土(10YR3/3)少量・ロームルブロック混入
第2層 褐色土(10YR4/4) 暗褐色土(10YR3/3)・ロームブロック・張化物混入
第3層 暗褐色土(10YR3/3)、ロームブロック多量・炭化物混入
第4層 黒褐色土(10YR3/3)、ロームブロック混入
第5層 暗褐色土(10YR3/3)、ロームプロック混入
第6層 開極色土(10YR3/3)、ロームがフロック混入
第6層 開極色土(10YR3/3)、ロームがフロック混入
第6層 明褐色土(10YR3/3)、にぶい黄褐色砂(10YR5/4)少量。ロームルブロック混入
第8層 にぶい黄褐色砂(10YR5/4)、暗褐色土(10YR3/3)・明褐色粘土(75YR5/6)、暗褐色土(10YR3/3)・明褐色粘土(75YR5/6)、暗褐色土(10YR3/3)・明褐色粘土(75YR5/6)、明褐色土(10YR3/3)・明褐色粘土(75YR5/6)・ロームブロック混入
第11層 暗視色土(10YR3/3)・明褐色粘土(75YR5/6) 混入
第11層 にぶい黄褐色砂(10YR3/3)、明褐色粘土(75YR5/6)・ロームブロック混入

第1層 暗褐色土 (10YR3/3)、明褐色粘土 (75YR5/6) 混入 第13層 にぶい黄褐色砂(10YR5/4)、暗褐色土 (10YR3/3)沙量・ロームブロック混入 第14層 明徳を粘土 (75YR5/6)、暗褐色土 (10YR3/3) 少量混入 第15層 暗褐色土 (10YR3/3)、ローム・プロック、小 繰り量混入 第16層 黒褐色土 (10YR2/2)、ロームブロック混入

24号土坑 第1層 暗褐色土(10YR3/3)、ロームブロック・炭化 物少量混入 第2層 暗褐色土(10YR3/3)、黒褐色土(10YR2/2)・ ローム小ブロック・炭化物少量混入 第3層 暗色土(10YR3/3)、黒褐色土(10YR2/2)・ ロームブロック・炭化物少量混入 第4層 暗褐色土(10YR3/3)、明褐色 粘土 (75YR5/6)・ロームブロック混入 第5層 明褐色粘土(7.5YR5/6)、暗褐色土(10YR5/4)少量 混入 第6層 明褐色粘土(7.5YR5/6)、脂褐色土(10YR5/4)少量 混入

第6層 明褐色粘土(7.5YR5/6) 暗褐色土(10YR3/3)

1:40 1m

第11図 土 坑

#### 出土遺物

土器 (第13図15、16、図版7)

いずれも埋土出土の深鉢形土器である。15は口縁部が緩く外反しながら立ち上がり、撚糸圧痕によって文様を作り出している。16は胴部で、文様や地文は摩滅によって不明であるが、一部に撚糸圧痕が認められる。

#### 石器 (第16図1)

埋土出土の磨石である。丸みのある自然礫の両面が磨れているものである。

#### 20号土坑 (第11図、図版5)

調査区の東側で確認された。平面形は東側が調査区外であることから不明であるが、東西80cm以上、南北1.3mの楕円形を呈すると考えられる。確認面からの深さは90cmで、壁は内湾しながら立ち上がり、断面形は袋状をなす。底面は平坦で、東西90cm以上、南北1.5mの楕円形を呈すると考えられ、最大径となっている。

#### 出土遺物

埋土より縄文土器片が少量出土したが、小破片であり図示できなかった。

#### 21号土坑 (第10図、図版 6)

調査区の南西側で確認された。平面形は南東側が調査区外であることから不明であるが、長軸70cm、短軸60cmの楕円形を呈すると考えられる。確認面からの深さは1.1mで、壁は内湾しながら立ち上がり、断面形は袋状をなす。底面は平坦で、東西1.3m、南北1.1mの楕円形を呈すると考えられ、最大径となっている。17号土坑と重複し、これより新しい。

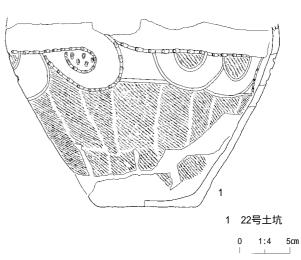
#### 22号土坑(第9図、図版6)

調査区の南東側で確認された。平面形は南側が調査区外であることから不明であるが、東西1.8m、南北95cm以上の楕円形を呈すると考えられる。確認面からの深さは1.5mで、壁は内湾しながら立ち上がり、断面形は袋状をなす。底面は平坦で、東西2m、南北1.5m以上の楕円形を呈すると考えられ、最大径となっている。

#### 出土遺物

#### 土器 (第12図1、第13図17~22、図版7)

全て埋土出土の深鉢形土器である。1は沈線区画の磨消帯を施すものである。円形の磨消帯の中に刺突を施したものが3個、縄文を施したものが1個配置され、それぞれ刺突を施した沈線と横位の磨消帯によって連絡されている。その横位の磨消帯の間には、中に縄文が施された円形や半円形の磨消帯が1~3個配置されている。地文はLr無節斜縄文(縦位回転)である。17は深鉢形土器の弁状把手である。中央部に孔が認められ、撚糸圧痕文や粘土紐貼付に



第12図 遺構内出土土器



第13図 遺構内出土土器

よる渦巻文が施されている。18は口縁部が外反しながら立ち上がる器形で、橋状把手が貼付されている。また、刺突文が2列に施されている。地文はLR単節斜縄文(縦位回転)である。19~22は粘土紐を貼付して文様を作り出しているもので、19は渦巻状に、20は縦位に、21、22は斜位に粘土紐を貼り付けている。

石器(第14図1、図版8)

埋土出土である。石鏃の未製品と考えられ、石質は硬質頁岩である。

#### 23号土坑 (第11図、図版 6)

調査区の北東側で確認された。平面形は北東側が調査区外であることから不明であるが、楕円形を呈すると考えられる。確認面からの深さは1.5mで、壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形はビーカー状をなす。底面は緩くくぼんでいる。24号土坑と重複し、これより新しい。

#### 24号土坑(第11図、図版6)

調査区の北東側で確認された。平面形は東側が調査区外、北側が23号土坑に切られていることから不明であるが、楕円形を呈すると考えられる。確認面からの深さは1.1mで、壁は内湾しながら立ち上がり、断面形はビーカー状をなす。底面は平坦で、規模は不明であるが最大径となっていると考えられる。23号土坑と重複し、これより古い。

#### 25号土抗(第10図、図版4)

調査区の南側で確認された。平面形は17号土坑に切られていることから不明であるが、楕円形を呈すると考えられる。確認面からの深さは40cmで、壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。17号土坑と重複し、これより古い。

#### 4 遺構外出土土器

遺構外出土土器を施文様により類に分類した。なお、遺物包含層における層位的な区別は認められなかった。

#### 1類(第14図23、図版8)

粘土瘤を貼付し、その上に沈線で文様を作り出すものである。23は口縁部が内湾しながら立ち上がる 深鉢形土器で、粘土瘤貼付後に沈線によって渦巻文を施している。地文は L R 単節斜縄文( 縦位回転 )で ある。

#### 2類(第14図24~26、図版8)

細い粘土紐によって文様を作り出すものである。24、25は鉢形土器、26は深鉢形土器である。24は口縁部が内湾しながら立ち上がるもので、口縁部に横位回転の、胴部に縦位回転のLR単節斜縄文を施した後、口唇部と頸部に横位に粘土紐を貼付している。25、26は地文を施した後、縦位と横位に粘土紐を貼付している。地文は25がLR単節斜縄文(縦位回転)、26がRL単節斜縄文(縦位回転)である。

#### 3類(第14図27~32、図版8)

比較的太い粘土紐を貼付して文様を作り出すものである。27は口縁部が大きく内湾しながら、28は口縁部が外反しながら立ち上がる深鉢形土器である。粘土紐は27、28は渦巻状や波状に、29~31は横位に、



第15図 遺構内・外出土石器

第16図 遺構内出土石器

32は渦巻状や円形に貼付している。地文は31が L R 単節斜縄文(縦位回転) 32が L R 単節斜縄文(斜位回転)である。

4類(第14図33~35、図版8)

綾絡文や撚糸文を施すものである。全て深鉢形土器の胴部で、33は綾絡文、34は撚糸文、35は網目状 撚糸文を施している。

5類(第14図36、図版8)

沈線区画の磨消帯を施すものである。36は深鉢形土器の底部から胴部にかけてで、幅の狭い磨消帯を 縦位に施している。地文は摩滅により不明である。

6類(第14図37~39、図版8)

地文のみのものである。37、38は深鉢形土器の底部から胴部で同一個体と考えられる。地文はLr無節斜縄文(縦位回転)である。39は深鉢形土器の底部で、底部外面に網代と考えられる圧痕文が認められる。

#### 5 遺構外出土石器

二次加工のある剥片(第15図2、図版8)

側面の一部に、片面から不規則な二次加工が施されているものである。石質は頁岩である。

#### まとめ

調査の結果、遺構は溝状土坑 1 条、土坑25基が確認され、遺物は土器・石器等がコンテナで約 2 箱出 土した。

以下、遺構と遺物についてまとめてみたい。

満状土坑は、1条確認された。一般的に溝状土坑は、平面形が直線的で、縦断面の両端が張り出し、横断面が「Y字状」や「V字状」にすぼまる形態が多く、陥とし穴などの性格が考えられている。しかし、本溝状土坑は平面形や断面形に相違が認められるなど、今後類例を調査して性格を検討したいと考えている。

土坑は25基確認された。形態は、断面形が袋状やビーカー状を呈するものと、平面形が楕円形を呈する比較的浅いものに分けられる。時期については、出土遺物が少なく明確にすることはできないが、12号土坑から大木8 a 式土器が出土していることから縄文時代中期中葉、8、22号土坑から大木8 a 式土器と大木10式土器が出土していることから縄文時代中期後葉と考えられる。また、1、2、10、11、19号土坑からは大木2式、大木4式土器が出土していることから縄文時代前期と考えられるが、埋土から小破片数点の出土であることから、詳細な時期については不明である。性格については、貯蔵穴や土壙墓などが考えられているが、断定はできなかった。

土器は施文様により 6 類に分類した。 1 類は粘土瘤貼付後に渦巻文が施されるもの、 2 類は細い粘土 紐によって文様を作り出すもの、 3 類は比較的太い粘土紐によって文様を作り出すものである。 1 ~ 3 類は大木 8 a 式土器と考えられる。 4 類は綾絡文や撚糸文を施すものである。小破片であり時期を特定することは困難であるが、秋田市寺内所在の児桜貝塚、同市御所野丘陵部遺跡群の坂ノ上 B遺跡や狸

崎 B 遺跡、同市添川所在の地ノ内遺跡から同類の土器が出土していることから、大木 2 式土器や円筒下層 b 式期の土器と考えられる。5 類は幅の狭い磨消帯を縦位に施すもので、大木 9 式土器と考えられる。このように向野遺跡は、出土土器から縄文時代中期中葉から後葉を主体とする土坑群であることが判明した。

今回の調査は、向野遺跡における初めての発掘調査で、住居跡は発見されなかったものの、集落の一部を構成すると考えられる土坑群が遺跡の東側である段丘突端部から発見されたことによって、遺跡を解明するうえで貴重な成果を得ることができた。

- 註1 『児桜貝塚』 秋田考古学協会 1965年9月
- 註 2 『小阿地 下堤遺跡 発掘調査報告書』 秋田市教育委員会 1976年 3 月
- 註3 『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 狸崎 B 遺跡』 秋田市教育委員会 1993年 3 月
- 註 4 『地ノ内遺跡 宅地造成に伴う緊急発掘調査報告書 』 大平不動産株式会社 1997年3月 秋田市教育委員会

#### 参考文献

秋田市教育委員会:『秋田臨空港新都市開発関係埋蔵文化財発掘調査報告書 湯ノ沢 B 遺跡』 1983年

3月

秋田市教育委員会:『秋田新都市開発整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 下堤 A 遺跡』 1988年

3月

秋田県教育委員会:『高野遺跡-県営ほ場整備事業(黒倉堰地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書-』

秋田県文化財調査報告書第372集 2004年3月

日本鉱業株式会社船川製油所:『大畑台遺跡発掘調査報告書』 1979年3月

田沢湖町教育委員会:『黒倉B遺跡 第1次発掘調査報告』 1985年3月

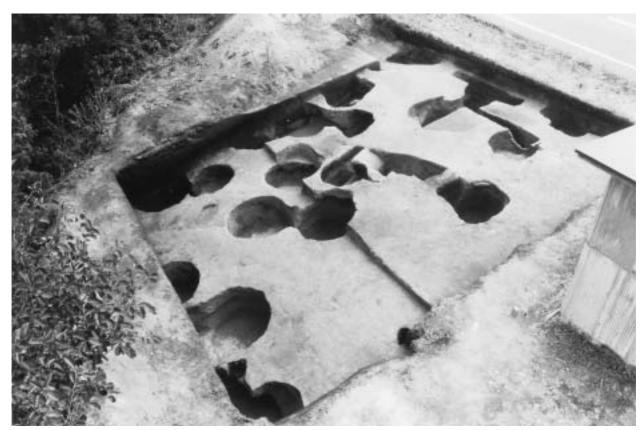
田沢湖町教育委員会:『黒倉B遺跡 第2次発掘調査報告』 1986年3月



調査区遠景(南から)



調査前(西から) 図版 1



調査区全景(北東から)



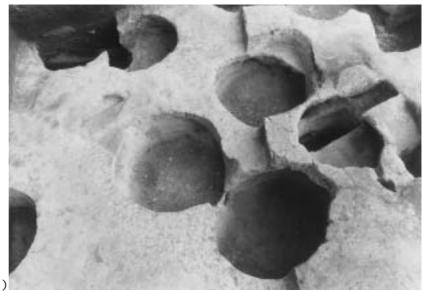
調査区中央(北から) 図版2



1号土坑(西から)

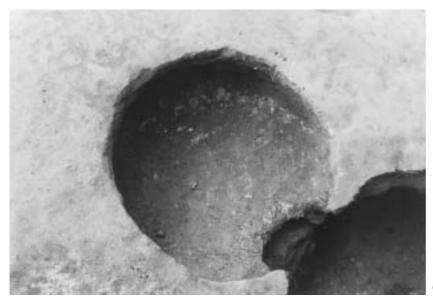


4号土坑(西から)



6~8、15号土坑周辺(北から)

図版 3



9号土坑(南から)

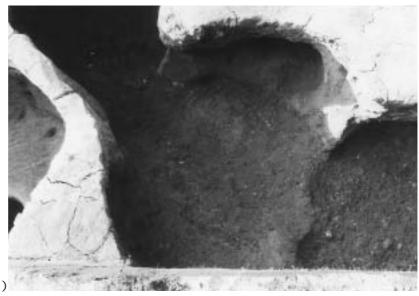


10号土坑(南から)



17、25号土坑(南から)

図版 4



18号土坑(南から)

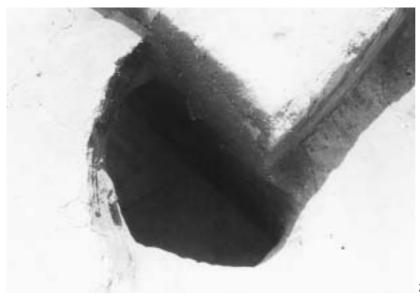


19号土坑(東から)



20号土坑(東から)

図版 5



21号土坑(北西から)

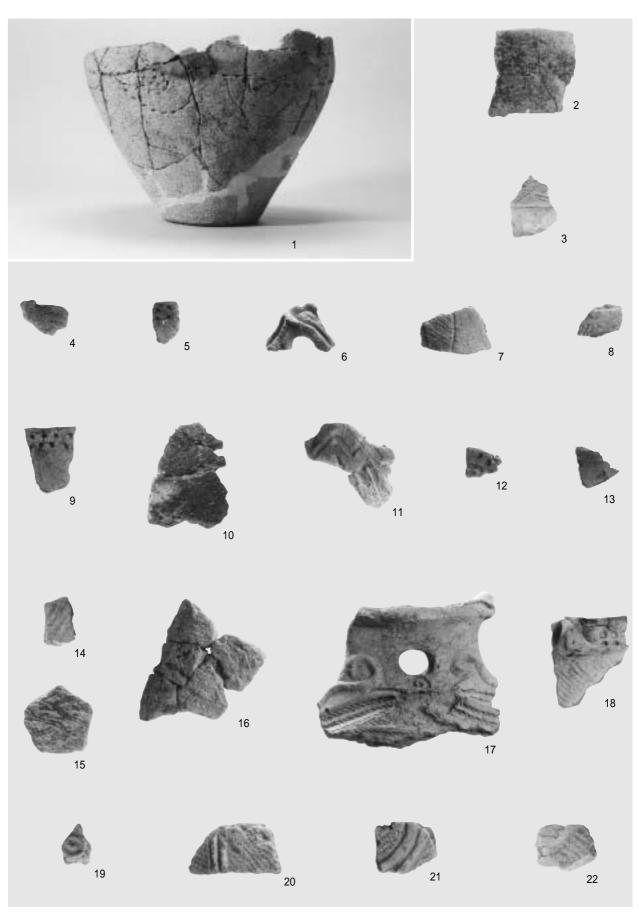


22号土坑(南から)

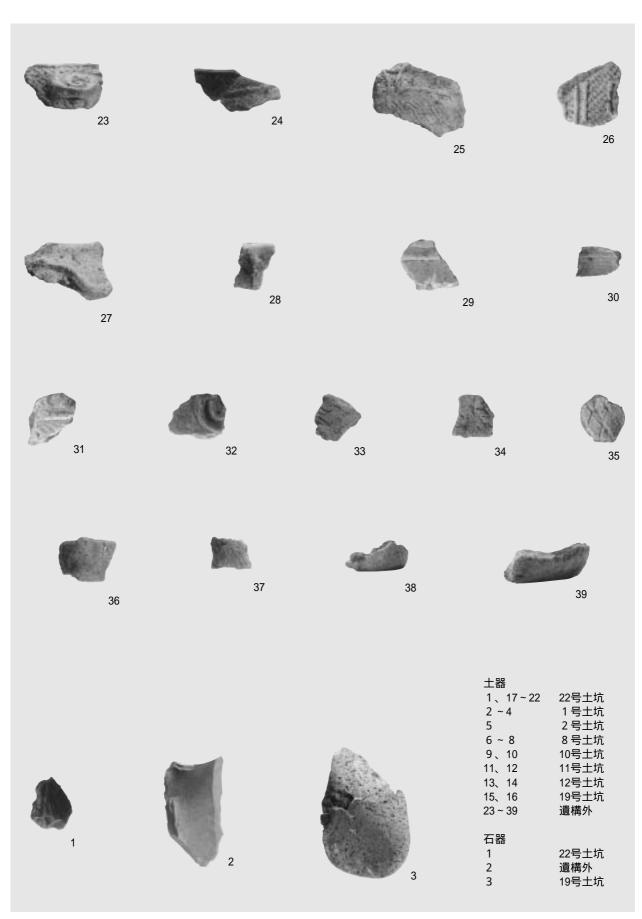


23、24号土坑(東から)

図版 6



遺構内出土土器 図版 7



遺構内・外出土土器・石器 図版 8

### 報告書抄録

ふりが	な	むかいの	ハせき										
書	名	向野	向野遺跡										
副書	名	携帯電	携帯電話無線基地局建設工事に伴う緊急発掘調査報告書										
巻	次												
シ リ - ズ 名													
シリーズ番号													
編 著 者	名	進藤	靖										
編集機	関	秋田市	教育委	<b>奏員会</b>									
所 在	地	〒010 ⋅	〒010 - 0951 秋田県秋田市山王二丁目 1 番53号 山王21ビル内 018 - 866 - 2246										
発 行 年 月 日 2006年3月													
ふりがな	131	りが	な	٦-	<b>-</b> ド	北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調	查	原	因
所収遺跡名	所	在	地	市町村	遺跡番号	0	0		m²				
むかいのいせき り	<sub>ゆうわむ</sub> <b>雄和[</b>	かいのあざふ <b>句野字</b> の	かきした	05201	468	39 °	140 °	20050706 ~	88	IMT	雄和	向	野局
	29 -	1				32	13	20050808		携帯電	電話第	無線	基地
						33	50			局建語	9.	事に	伴う
										発掘詞	周査		
所収遺跡名 種		別	主な時代		主な	遺構	Ē.	主 な 遺	物	特	記	事	項
向 野 遺 跡	集	落	縄	文	溝状土坑	ī		縄文土器	石器				
					土坑								

#### 

- 携帯電話無線基地局建設工事に伴う緊急発掘調査報告書 -

印刷・発行 平成18年3月

編集・発行 株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ東北

秋 田 市 教 育 委 員 会 〒010-0951 秋田市山王二丁目1番53号

山王21ビル内

TEL 018-866-2246 FAX 018-866-2252

印刷 (有)タイヨー商会